

巻頭言（紀要第7号の発刊によせて）

島根職業能力開発短期大学校は、平成5年（1993年）の開校以来、地域を支えるものづくり産業に必要とされる実践的な技能者の育成に努めてまいりました。この間母体となる組織は特殊法人の雇用促進事業団、特殊法人の雇用・能力開発機構、独立行政法人の雇用・能力開発機構、独立行政法人の高齢・障害・求職者雇用支援機構と変遷いたしましたが、この目標は一貫して変わっておりません。

しかしながら、ものづくり産業に必要とされる実践的な技能者像はこの間に大きく変化しており、特に昨今、AIやIoTをはじめとするデジタル技術の進展は、地域社会の在り方や産業構造にも大きな変化をもたらしております。こうした変化の中で、地域が抱える課題に対し、新たな技術を使いこなし、創造力をもって応える人材の育成が、ますます重要になっております。

本校では2年間の集大成として行う「総合制作実習」のテーマ設定として、①ものづくりに係る全国規模の大会において上位を目指す取り組み、②地域の課題に対して学生の視点からものづくりの観点から解決策を提案する取り組みを推進することとしています。

今回の紀要の発刊は、主に令和6年度のこれらの教育訓練の活動の記録を記載しており、学生を交えての講師陣の専門分野に関する研究、授業の中での実践的な課題や総合制作実習の取り組みを報告しています。

これらの活動は、講師陣自身の想像力、発想力を豊かにするだけでなく、学生にとっても限られた授業時間の中で試行錯誤しながら完成させたもので、問題解決力や思考力などを身につける良い機会となっています。紀要第7号はこのような活動を日頃から記録にとどめ、常に現場の問題に直面し、今後どのように向かい合っていくべきなのかなどについて、地域の企業や事業主団体等の方々に十分ご理解していただくことを目的に編纂したものです。

本紀要が、皆様にとって本校の教育訓練の意義と可能性を感じていただける一助となれば幸いです。また、各自の飛躍の糧となるよう関係各位からの忌憚のないご意見・ご批判をいただければ幸甚に存じます。

最後に、当校は地域に根差し、地域に愛され、地域に貢献する大学校をめざして、たゆまぬ研鑽をしていく所存でございますので、なお、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

2025年10月

中国職業能力開発大学校附属
島根職業能力開発短期大学校

校長 千原 雄史